



令和元年度	・グリーンポット 植え込み (6月・10月)	・10名	会を始めてから5年目になり、イベントも定着してきました。ここで更に植物への理解を深めるためにビオラを種から撒きました(サカタのタネのモニター)。播種からポット上げ、植え込みはハンギングバスケットやプランターに植えるなど工夫しているところです。また、毎回土を買うと費用がかかるため、少しでも出費を軽減できないかと調べた古土をうまく再利用することに挑戦しました。まずは新しいことを副委員長の上田が探してきて試し、役員で挑戦し、うまくいったら会員にも伝えて成功例を広げていくようにしています。
	・コキアホウキ作り (10月)	・10名	
	・アイスチューリップ (11月)	・33名	
	・種からビオラ(サカタのタネモニター) (8月～)	・役員8名	
	・第5回ハンギングバスケット講習会 (12月)	・29名	
・土再生作り (10月)	・8名		

### 3 地域との関わり

	活動・取組等の名称	詳細内容
自治会・町内会との関わり	上星川商店会	上星川商店会の定例会に参加(毎月第一土曜日19時から)。目的は、商店会のメンバーと仲良くなり、会の趣旨を理解してもらうため、また、商店街の活性化や街並みをお揃いのグリーンポットでお花いっぱいにします。忙しい商店街なので少し離れた東川島町の活動が伝わらないので報告しに出向いています。
学校との関わり		子供達には「花育」で心豊かな子になってもらえるよう、また小学校や保育園に会の活動を知ってもらえるためには、どうすればいいか検討中です。
他の市民団体との関わり	地域緑のまちづくりの他の団体との交流	保土ヶ谷区内との団体との連携で上菅他地区が視察しにきてくださいました。同じ区としてこれからスタートをするにあたり活動内容を聞きにきました。
企業等との関わり	地域にある企業にもお花を飾ってもらう サカタのタネとのコラボ	地域内にある企業にもお花を飾ってもらい、フラワーロードを繋げてもらうよう働きかけました 発起人の副委員長の上田が種から育てることが好きなのを知っているので、街の施工を頼んだ社長からモニターをやらないかとのお話をいただきました。サカタのタネのシャカシャカ種まきやビオラの種を撒き育てているところです。(補足資料参照)
行政との関わり	横浜環境創造局	横浜環境創造局「地域みどりのまちづくり」2017年11月～

その他、 環境以外 の分野と の関わり		
------------------------------	--	--

#### 4 団体の発足経緯／活動を始めたきっかけ、動機

※立ち上げた主体、どのようにして活動に携わる人が増えてきたのか等も合わせ、具体的に記入してください。

※個人の方は、活動を始めたきっかけについて記入してください。

そもそも、お花が大好きな副委員長の上田が、横浜の環境創造局が企画する「地域緑のまちづくり」を知り、「自分の住んでいる町にお花が広がったら素敵じゃないかな？」という思いから始まりました。

応募するにあたり5人必要なため、人集めから始まりました。しかし、引っ越して間もない私たち（上田と高野親子）は地域の人や町内会や自治会を知らなかったのでお花が好きそうなお宅を訪問したり、知人経由で紹介してもらったり、なんとか応募に必要な5名を集めました。

まだ上田と高野のことも知らない、助成金の制度も知らない段階から始めたので「半信半疑で入った」と最初の役員は後に教えてくれたほど、基盤がありませんでした。上星川商店会の会長にもお話を持っていったり、最終的には10名の役員を集め、会を立ち上げました。

最初に「ハンギングバスケットがあると絶対いい宣伝になる！」という上田の思いが的中しました。ハンギングバスケットは花束のようで目を引き、それをきっかけにこの町にお花好きの会員が集まり、今や58名の会員、賛同者を含めると100名程の会へと広がりを見せました。

#### 5 今までの活動

##### 活動の目標・ねらいに対する成果

- ・地域にお花を広げ、**フラワーロードにする**⇒上星川駅から西谷町という広範囲ではありますが、散歩している人が町にお花が増えたと言ってくれます。関わりがなかった3地域の人を知り合い、**地域活性化**につながりました。
- ・プロ講師を招いた講習会を開きお花の**知識の向上**⇒お花好きなメンバーがより一層お花に関して詳しくなったり、花柄摘みでお花が長持ちしたり、種から育てたり、挿し芽で増やしたり、会で独自のイベントを開催できるようになりました
- ・お花を通して地域の**コミュニケーション**⇒お花にみずやりをする際に話したり、他のメンバー宅はどうかと見に行ったりお互い前より接する機会が増えました。治安の良さにも繋がります。
- ・独自の**イベント開催**⇒ハンギングバスケット、コキアのほうき作り（コキアは種から育てる）、地域お揃いのグリーンポットにコリウスや区の花すみれ（ビオラ・パンジー）を植える、アイスチューリップ講習（初年度はお揃いのコンテナに植え込み講習をし、その年以降も発注から配布をし継続）、多肉のリメ缶講習（食べ終わった鯖缶を活用し、缶に色を塗り、多肉植物の植えこみをする）

##### 生物多様性に関する取組（生物多様性特別賞の選考の参考とします）

※取組の中で、生物多様性に関するものを記入してください。

（1ページ「生物多様性特別賞について」に事例を記載しています。）

特になし

## 6 今後の活動方針

※次年度以降の目標や、活動継続のためにどう引き継いでいくのかも含めて具体的に記入してください。

- ・資金は個人負担が基本となりますが、種から育てたり挿し穂したり、安い方法を常に考えています
- ・独自のイベントを考案し、会員に楽しんでもらう（コキアのほうき作り、コリウスなど大好評）
- ・緑の協会を利用し、安くお花を提供する（緑の教会には市からの紹介で入り、市の契約農家からお花を半額～1/3の値段で買い、街のグリーンポットや個人会員に提供している）
- ・子供会などからも参加を増やしたりできるようにしたい
- ・地域の保育園や学校に向けたイベントなどを考え、地域に還元したい

## 7 審査にあたり、最も注目してもらいたい取組、PRポイント

※最も注目してもらいたい／評価してもらいたい取組や、これまでの項目に当てはまらないPRポイントについて具体的に記入してください。

- ・この会は二人の親子から始めた点。
- ・二人きりで始めた会が町内の枠を超えて広がった点。（3町内会）
- ・マンションの中でも交流が増えた点。（同じマンションに前から住んでいるのに初めて会った・・・など）
- ・マンションと地域地元の人が初めて繋がった点（以前はマンション、地域と分かれていた）
- ・町内会等のバックアップ団体もなく、お花好きを集め、地域を明るくしている点
- ・副委員長上田が会の向上ため資格（ハンギングバスケットマスター、グリーンアドバイザー）を取得したり、講習会に足を運び知識やノウハウを惜しみなく提供している点
- ・お花を通じて強い絆ができた点（防犯・災害にも役立つ交流の輪ができた）
- ・誰もが知っている親しみのあるお花の個性的な植え方（ビオラや葉牡丹をハンギングバスケットに、冬にアイスチューリップを咲かせるなど）こだわりを持って街に適した花を選抜した点
- ・今まで街になかったコリウス、コキア、多肉などが好評で定着しつつある点
- ・助成金が終わっても会なりに頑張って継続している点

## 上星川グリーンアッププロジェクト 補足資料

<はじめに>

きっかけは、発起人の上田が自宅に植えているお花を通りがかりの人が見て「綺麗ね」「なんのお花?」「どうやって増やすの?」と声をかけてくれることが増えたので「街にお花が増えたらいいな」と思ったのが始まりでした。

その頃、横浜市の「地域緑のまちづくり」というプロジェクトがあるのを知り、親子で一緒に応募してみようかと思ったのがこの会のスタートです。

上星川グリーンアッププロジェクトは一つのチラシから始まりました。市から配布されたチラシのみを持って、まだ引っ越して間もない知らない地域を回り歩きました。まずは組織作りから始まりメンバーを集めるためにオリジナルのチラシを作ったり暑い夏の中緑を置いているお宅にピンポンして回ったり回覧板を回したりしました。この地域は上星川駅～東川島町～西谷町という3町内会を跨いだ広範囲に渡り町内会のバックアップもなければ新旧の人の混在、商店街と住宅街がある街でした。



市のチラシ



回覧板で回したチラシ



設定した範囲は3町内会に渡る

まずは「地域をお花で繋ぎたい!」という気持ちで大好きなハンギングバスケットを広めよう目指しました。まだ提案が正式に通っていないのにハンギングバスケットの先生の予約を抑えたりもしました。また、2017年以降は助成金を使ったプロによる講習会だけではなく、助成金終了後のことを考えた自分たちでやるイベントも企画し始めました。

【タイトル】	初めて見るハンギングバスケット
開催時期	毎年12月初旬
目的	今までにないお花の楽しさを！
内容	<p>2015年から始めたこの会の目玉とも言えるハンギングバスケット講習会は大好評でした。最初は、初めて見る、苗がたくさん入っていて窮屈そう、かわいそう、育つのか、高い、などいろんな声がありました。それでもはじめにハンギングバスケットを取り入れたかった理由は、ハンギングバスケットはインパクトがあるからでした。目線の高さなので視野に入りやすい、17苗も入っているのも豪華、もう一つは長持ちすることが理由でした。冬の葉牡丹とビオラはクリスマス、お正月ばかりか4月頃までもちます。12月から4月まで飾られると5ヶ月もちます。これで冬中、町が明るくなりました。<u>私たちの地域は玄関先に植え込むスペースが限られているのでこのハンギングは大ヒットでした。</u>これを作りたくて会員になった方が多くいました。会員の旦那様も「これは買ってきたのか？」とお花に気がつくほどインパクトがあったようで会員も嬉しく思ったそうです。「165cmスタンド」という目の高さにお揃いのスタンドを購入しては、そのスタンドに32基飾られました。そしてのちにウエルカムハンギングとして街に定着しました。「ウエルカムハンギング」とは道を通る人たちに「いってらっしゃい」「おかえりなさい」とお花が挨拶の言葉をかけてくれているようでこの言葉が生まれました。ここで、忙しくて作れない商店街に代わってお花好きの人が制作する「ボランティア制度」ができました。5年目を迎える2019年の今でも30人前後の方が毎年楽しみにしてくださっています。人気のため、2日間に分けたり、午前午後と2グループに分けないといけなくらいです。ハンギングバスケットを会として続けているのはこの地域だけですと業者の方も仰って下さいます。</p>





搬入時



製作中



完成写真



記念撮影



商店街へ運搬



商店街と住宅街と繋がりもできました

その次に会員や地域の方を虜にしたのがアイスチューリップでした。

【タイトル】 冬に咲くチューリップ

開催時期 毎年12月頃

目的 老若男女馴染みのある花チューリップを長い間楽しめるように。

内容 ●2015年 初めて取り入れたアイスチューリップを4年前に見た人はびっくりし、通学途中の小学生も自分達の知っているチューリップに春が来たとはばかりに咲いているのを見て「ホンモノ？」と触って登校したと聞きました。アイスチューリップとは業者さんが球根を特殊なやり方で冷蔵したチューリップのことで寒い時期に咲きます。秋に球根を常温に出してチューリップに春が来たかもと勘違いさせるからクリスマスからお正月にかけて1か月以上咲くのです。みんなが親しみ安い身近なチューリップの新しい楽しみ方だと思い、取り入れました。

●2019年 それ以来毎年2016年2017年2018年2019年とみんなで購入しています。今年は2015年秋からのアイスチューリップに加えてサカタのタネさんのモニターとして3月に咲く「アーリースマイルチューリップ」を60球植えることになりました。3月とはいえ、まだまだ寒い日が続くので長持ちするチューリップが楽しめます。今年は、役員のみモニターを引き受けてじっくり観察するつもりです。これに例年の春咲きチューリップを植えたらなんと11月末から4月頃まで長いこと「チューリップリレー」として楽しめるのです。チューリップは冬でも球根に水遣りが必要な為、上にイベリスやビオラを植え付けチューリップにも水が行くように配慮しています。また球根を寝かせて輪のようにして植え込む「花束咲き」と言われる中央にまとまって咲く植え方も楽しんでます。たかがチューリップ、されどチューリップです。始めてから5年も続いている理由は街には珍しい品種より馴染みのある植物が受けいられることも分かったからです。会員の中には球根を掘り起こし、自家製アイスチューリップを冷蔵庫の野菜室で作り2年続いて咲かせたツワモノも居ました。



<チューリップリレーの様子>



1 1月アイスチューリップ



3月アーリースマイル



4月中咲きチューリップ

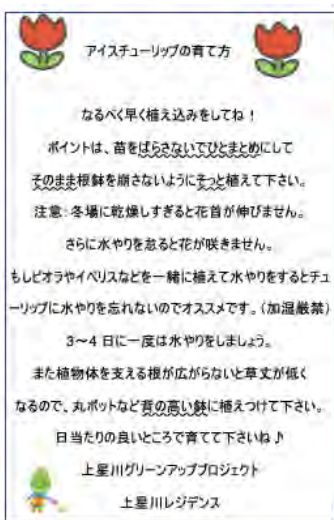


花束咲き植え



自家製アイスチューリップ

小柄ながらに頑張って咲いている様子が可愛い



初年度「バラバラにして植えてしまい咲かなかった」という方もいたり、植え方が分からないという方もいたので全員に「アイスチューリップの育て方」の紙面を作り芽出し球根と一緒に配布しました。

この頃から段々と会員のお花に対する意識が変わってきました…。例えば、今までは種類を単独でポットに植えている方が多かったようですが、寄せ植えをすることにより葉牡丹、ビオラ、チューリップというありきたりの花が全く別物のようにみんなの力で輝いてきたのです。

【タイトル】 お友達作戦グリーンポット

開催時期 毎年春・秋

目的 会員でなくても「お花を置いてもいいよ」という方に向けてお花が入った緑のプラポットを家・店前に置き街を一緒に盛り上げる。

内容 冬はビオラ、夏はコリウスを植えました。保土ヶ谷区のお花はすみれです。ビオラやパンジーはすみれ科でもあるのでそれも意識して植えました。定着してきたグリーンポットですが、夏に人気になったコリウスはのちに記述する「こんもりコリウス増やし隊」へと広がります。



搬入時



区の花・すみれ



植え込み完成



街に置いた様子  
ビオラ



コリウス

**【タイトル】** こんもりコリウス増やし隊

開催時期 毎年5月頃植え込み～11月末頃

目的 花がら摘みがいらず、病虫害にも強く、梅雨や夏の酷暑にも負けない栄養系コリウスを選択し、街に彩りを添えました。

内容 ●2017年は副委員長の上田の知識の元、元気で長持ちする「栄養系コリウス」を植えました。こんもり育てるための紙面は渡しましたが、まだ交流も薄く、人員も集まらず、さらには伝達がうまくいかなかったのか、個人任せになってしまいました。結局カットしないまま一本棒で育てたり、挿し木にもできないのが多かったため、こんもりせずに終わってしまい課題が残ったままでした。夏に元気が出る色が好きという声は頂いていたので再度次の年にも挑戦することにしました。

●2018年は安いからという理由で地域の花屋さんから「実生系コリウス」を仕入れました。みんなの少しでも安くという気持ちが強かったため、また「実生系」と「栄養系」の違いがよく分からないので実際に見て比べてみたいという経緯もあり、「実生系」を植えました。実生系とは種子を撒いて育てるためすぐ花が咲き、種ができ、短命です。実際秋口にはすぐに花が咲いて終わり、挿し芽も取れませんでした。やはり次の年には「栄養系コリウス」を植えようという結論になりました。

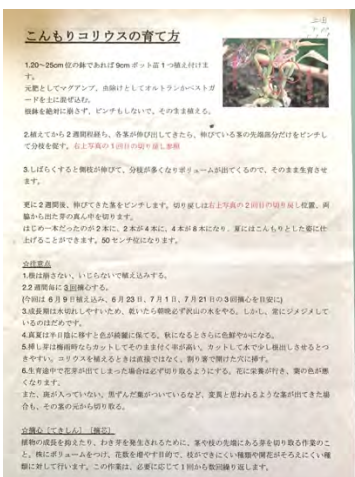
●2019年夏には「栄養系コリウス」を購入しました。「栄養系コリウス」とは暑さに強くどんどん成長し花がつきにくいので長生きします。街を明るくするため色合いにもこだわり、赤系の「レッドヘッド」、黄緑系の「わさび」、ハロウィンにも活躍できる黒色の「ミッドナイトグリーン」、黄色系の「レッドアイズ」、オレンジの「キャンプファイヤー」でコントラストができるような苗を選びました。サイズにもこだわり、小さいのではなく、「大型系」を取り入れました。また、「こんもりコリウス増やし隊」を結成し、こんもりコリウス増やし隊が地域に出向きました。5月に植えたコリウスは8月頃2週間おきに4回にわたりカットして整えたので、脇芽を増やしてこんもりさせることに成功しました。また、そのカットし



た挿し芽は挿し木として200以上のポットに植えて、地域の皆様に無料配布しました。挿し芽ができる「栄養系コリウス」の仕入れ値は「実生系」と比べ2～3倍しますがその価値があるという結論になりました。歩いてみると団地のベランダにあったり、デイサービスの花壇に植わっていたり街に広がりを見せました。ビオラの植え替えまで半年楽しめる植物を選びたいと思いました。台風の時にはできる場所では室内に避難してもらい対応したため、台風も乗り越え、綺麗な状態で維持されました。5月に植えたコリウスは11月末でビオラに植え替えをするサイクルを保てました。忙しい商店街にもぴったりだと思ったコリウス。道通る方にもお褒めの言葉をもらうそうです。今年に入ってから商店会の月一度の定例会にも参加しお花の手入れ方法や今後の予定などをお話し良好な関係性を維持しています。



カットしたコリウスはすぐに肥料の入った水に入れる



育て方の紙面配布。

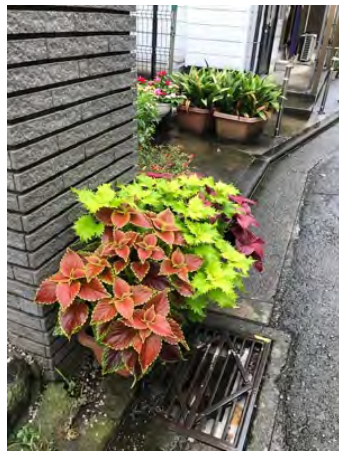


挿し穂で合計200ポット以上に。子供も一生懸命手伝ってくれました。





猛暑でも見た目が爽やかなコリウス。増える、強い、花柄摘みがいらないので好評。



暑さを吹き飛ばしてくれるような色合い。ハロウインの時期でも大活躍。

【タイトル】 コキア タネから～ハウキ作りまで

開催時期 毎年4月～10月頃

目的 種から育てる楽しさ、紅葉を楽しみ季節を感じる、育ったものをハウキへと変え緑の命を最後まで大事に扱う

内容 ●2015年 コキアを初めて購入し水をあげすぎて枯らしてしまい失敗しました。

●2016年 副委員長の上田がまたコキアを育ててみたいという想いで190円の苗を2個だけ購入し、育てたら成功しました。役員の一人とハウキ作りに挑戦。その方の家は地植えだったのでタネがたくさん落ちそれからというもの、なんと、この2苗を購入して以来会で一度もコキアを購入する必要がないほど毎年溢れ種から増え続けました。

●2017年 地植えから溢れた種が次の年の春自然に芽が出たり、また、ハウキ作りの際溢れた種を取っておいて4月末にポットに撒いたり



しました。そこで初めて「第一回目ホウキ作り」を募集したところ13名の応募がありました。メンバーの方が山から枝を集めてきたり、メンバーの方からリボンを寄付していただいたり安価で可愛いものができ大変満足いくイベントを企画することができました。コキアは直根性で根が弱いので小さなうちからポット上げすることが大切です。夏は緑で涼しげな姿でだんだん狸のように丸くなり秋にはピンクに紅葉しとても美しいです。コキアは病虫害にも強く手入れも入らず夏の暑さにも強く場所もとるので見栄えもし、ホウキ作りを通してコミュニケーションが取れるのでこの会に最適だと思いました。お友達も増えたと皆様喜んでくれました。

●2018年 茨城県ひたちなか市に視察をしに行きコキアへの想いがますます強くなりました。発芽適温が20度以上なので、タネが地植えから勝手に出てくるのを見てから撒かないと失敗する年もありました。日当たりと水はけの良い場所出ないとうまく行かないということが分かりました。「第二回目ホウキ作り」にも13名ほどのかたが集まってホウキ作りを楽しみました。アンケートには楽しかった、一粒の種からこんなに大きくなるなんてびっくり、ホウキ作りは初めての体験だった、このほうき使いやすいね、などの声がありました。関内であった「地域緑のまちづくり」の報告会&交流会で発表した時にもホウキとタネを持っていき会場で欲しい方に配りました。地域を超えてタネが広がりあちこちでコキアの繋がりができたこと嬉しく思いました。それから零れ種で毎年あちこち増えました。

●2019年 この年には上星川商店街にも増やしたポット上げしたコキアを並べました。駅から降りてきた人たちの目を楽しませたことでしょう。今年は大きな台風が二つと秋の長雨および日照不足により成長が心配されましたが元気に大きくなり去年と同じような成果が得られました。今年も「第三回目ホウキ作り」を開催することができ好評でした。本当であればホウキ作りをもっと広げたいのですが、紅葉するタイミング

が今年うまく掴めず告知が遅れたので新しい人は声をかける機会を逃してしまいました。普段から活動をみんなに周知する広報が当会は弱いので残念でした。このようにコキアは大勢の会で扱う植物としては最適だと思いました。

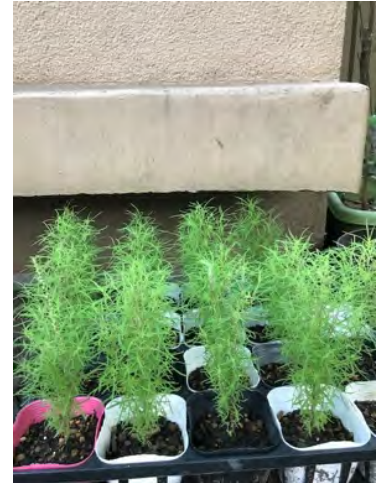
<種から蒔いたコキアの成長の様子>



播種



ポット上げ



成長



成長の過程



紅葉

<コキアのホウキ作り>



木の枝やホウキの準備



講習の様子







大きさにびっくり



記念撮影



手のひらサイズのホウキも作成



完成



【タイトル】 サカタのタネとのコラボ① シャカシャカ種まき

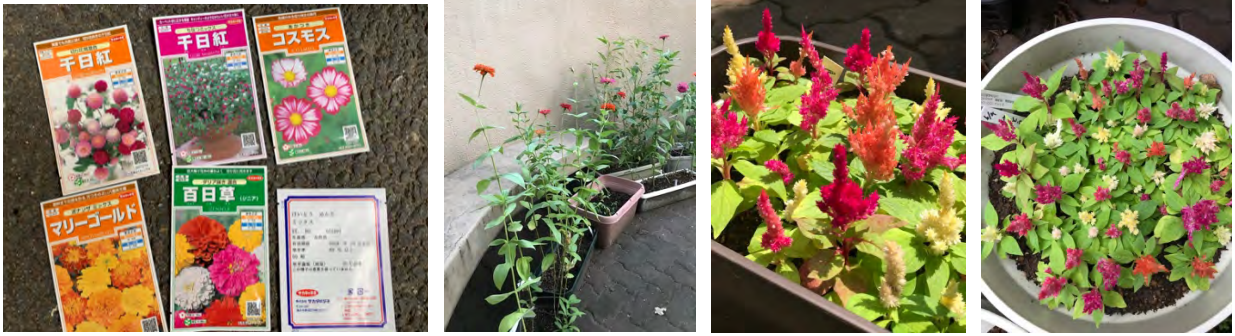
開催時期 2019年6月4日～

目的 サカタのタネさんと地域の住民とのコラボ 「地域の人がタネから育てたらちゃんと育つのか」モニター

内容 上星川グリーンアッププロジェクトが種から苗を育てていると知ったサカタのタネさんからご依頼を受けました。







【タイトル】 サカタのタネとのコラボ② 種からビオラ

開催時期 2019年7月～現在

目的 サカタのタネさんと地域の住民とのコラボ 「地域の人々がタネから育てたらちゃんと育つのか」モニター

内容 上星川グリーンアッププロジェクトが種から苗を育てていると知ったサカタのタネさんからご依頼を受けました。

●2014年～ メンバーが個人的に種からビオラを育てることを始めました。

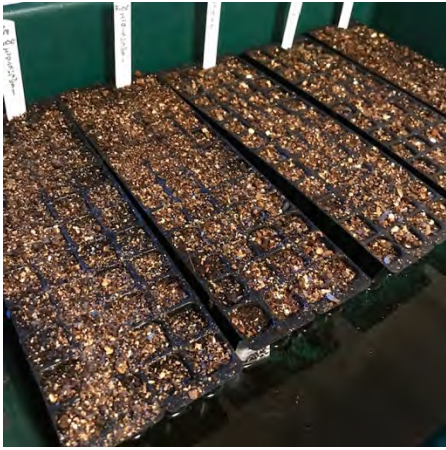
●2019年 以前から種からビオラを撒いていたメンバーを見て「種からビオラ」をやりたいという要望があったのでサカタのタネさんの協力で春に引き続きまた役員でモニターを始めました。撒き時期をずらしして色々撒いたり、日向日陰など各家庭の条件の違いもデータに取りながら育てています。

<種からビオラを育てる様子>



モニター用の種や土





種まき



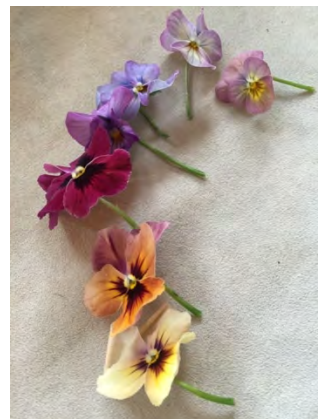
発芽



双葉が出てきて本葉が出てくる様子



ポット上げ



種からビオラができる様子





種から育てたビオラでハンギングバスケットや寄せ植えを製作

【タイトル】 土再生作り

開催時期 2019年 初めて挑戦

目的 土を買うための費用を軽減するために古土を再利用

内容 街中の古い土を集めて再生しています。 割合【分量】20Lの古土に対してピートモス5ℓ ケイ酸塩白土約100g 肥料60gの黄金比というもの勉強会で習ったのを地域でも今年で使い始めます。古い土は原菌が付きやすい根や土が壊れたみじんをふるいで取り除き、以上の黄金比を入れます。



古土を再利用

【まとめ】

以上のように、いただいた助成金でまずは知識を得て、それに止まらず助成金がなくなった後も継続できるよう安価で可愛いお花を取り入れるなど街に受け入れられるようなイベントを企画するよう工夫をしました。お花による効果は、花が咲くと癒される、外に出る回数が多くなった、花友達ができ、花いっぱい散歩コースができて嬉しい、お揃

いコンテナにより街の一体感、防犯効果などがありますが、今後の課題も多々あります。忙しい、という方もおられますが命を持つお花や緑を大切にする気持ち、そこから生まれる会話などを大切にしていきたいと考えております。

最後に、ハンギングバスケットから広がったお花のパワー。人員不足や継続方法、効率的な伝達方法の課題が残る中、細く長く続いていけばいいと思います。このプロジェクトがなかったら今知り合っている方とは今ほどの仲良くなかったことでしょうか。ただの近所の人、で終わっていたことでしょうか。地域の方との繋がりが薄れている中、田舎に住んでいるように街を歩いていけば必ず知り合いに声を掛けられるという暖かい環境になりました。無謀だと言われた広範囲の地域も結ばれました。今では賛同者も含め100人以上がこの会に賛同してくれています。改めてお花の力ってすごいなと実感できる濃い時間でした。助成金が終わってもとどまることなく、次世代にもお花と笑顔の輪を繋げていけるよう続けて行きたいと思います。



会員の中で育てた朝顔の苗をお散歩コースにおいて無料配布している



ハンギングバスケットを楽しむ上星川地区の皆様